

令和6年度 寒河江市 統一的な基準による財務書類（全体会計）【概要】

I 貸借対照表

会計年度末において、市の資産とその資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左半分に資産を表示し、右半分に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産（これまでの積み上げ資産）		負債（将来世代が負担する金額）	
固定資産	(1)事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館 市営住宅、公民館など	154億6,412万円	固定負債 (1)地方債等 221億799万円 (2)その他の固定負債 135億1,790万円
	(2)インフラ資産 道路、公園、上下水道など	1,086億2,474万円	流動負債 (1)地方債等（1年内償還分） 22億1,744万円 (2)その他の流動負債 8億8,914万円
	(3)物品など	31億2,259万円	
	(4)無形固定資産	7,901万円	負債合計 387億3,246万円
	(5)投資その他の資産	76億2,908万円	純資産（現在までの世代が負担した金額）
流動資産	(1)現金預金	27億8,136万円	純資産合計 1,028億618万円
	(2)基金、未収金など	38億3,773万円	
資産合計		1,415億3,864万円	負債及び純資産合計 1,415億3,864万円

IV 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高		28億8,652万円
本年度資金収支額		△2億3,154万円
1	業務活動収支 税収、国県等補助金 など	37億9,644万円
2	投資活動収支 公共施設等整備支出 など	△31億3,456万円
3	財務活動収支 地方債発行、償還 など	△8億9,342万円
本年度末資金残高		26億5,498万円
本年度末歳計外現金残高		1億2,638万円

III 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）がどのような財源や要因によって年度内に変動したかを表示しています。

前年度末純資産残高		990億720万円
本年度変動高		37億9,898万円
△純行政コスト		△264億8,365万円
財源		289億5,829万円
その他		13億2,434万円
本年度末純資産残高		1,028億618万円

※表中、表示単位未満は 四捨五入等のため、合計が一致しない場合があります。

市の資産と負債の状況

住民1人当たりの資産と負債残高（令和6年12月31日現在人口 38,806人※山形県の人口と世帯数より）

資産＝365万円 負債＝100万円

純資産比率（今までの世代で負担済み）・・・72.6%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産/総資産】

有形固定資産減価償却率（資産の老朽化比率）・・・59.6%

償却資産の耐用年数に対し、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額/取得価格】（物品を除く）

※令和6年度末現在 償却資産取得価格等：962億6,887万円 減価償却累計額：573億8,410万円

令和6年度 財政運営の総括

① 業務活動収支（行政運営の経常的な収支） 37億9,644万円

② 投資活動収支（基金積立、資産形成等） △31億3,456万円

③ 財政活動収支（市債の借入・償還の収支） △8億9,342万円

①～③の合計より、
資金収支は△2億3,154万円

※各活動収支を用いた分析例から、「税収等に余裕があり、かつ借金の返済も行えている状態」とであると評価できます。

※活動収支が“△(マイナス)”の状態とは、支出が収入よりも上回っている状態を表します。

II 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと、使用料・手数料等の収入を示すものです。行政サービスの提供に対する受益者負担割合を算出することができます。
※受益者負担比率：11.5%【経常収益/経常費用】

経常費用	299億3,001万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入 など	44億6,941万円
物件費等 物件費、維持補修費、減価償却費 など	92億6,408万円
その他の業務費用 支払利息 など	5億6,925万円
移転費用 補助金等、社会保障給付 など	156億2,727万円
経常収益	34億4,900万円
純経常行政コスト （経常費用－経常収益）	264億8,101万円
臨時損失 災害復旧費 など	364万円
臨時利益 資産売却益 など	100万円
純行政コスト （純経常行政コスト＋臨時損失－臨時利益）	264億8,365万円

■ 4つの財務書類の公表

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、「地方公会計制度」に基づき統一的な基準による4つの財務書類を作成し、市ホームページ等で公開し、見える化を推進していきます。

■ 財務書類等の活用

今後、年度間の比較を行っていくほか、全国の人口および財政規模を同じくする自治体と比較するなど、単年度の現金収支情報からは計れない財政状況をより明らかにし、財政健全化及びマネジメント強化に活用していきます。



寒河江市役所庁舎
岡本太郎「生誕」